




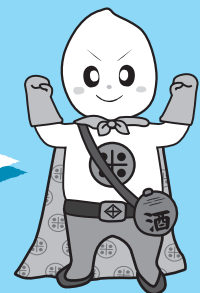


年代	広報しんとつかわ	主な出来事
1980年 (昭和55年)	 <p><b>8月 400号</b></p> <p>表紙は、農業を継いだ4代目の農業者の写真です。 400号では、開基90周年の特集を6ページにわたり紹介しました。</p>	日本の自動車生産台数が1100万台を突破し、世界第1位を達成。日本車の台頭は、日米の貿易摩擦の原因となりました。
1988年 (昭和63年)	 <p><b>9月 500号</b></p> <p>第2回ふるさとまつりで行列していた綱引きの様子が表紙です。当時も、多くの人でにぎわっています。</p>	青函トンネルの開通に伴い、青函連絡船が廃止。青函トンネルは、建設開始から開通まで27年かかりました。
1996年 (平成8年)	 <p><b>12月 600号</b></p> <p>この年の592号から、誌面のサイズがB5からA4に変わりました。 表紙は、町民音楽祭で元気に太鼓をたたく子どもたちの写真です。</p>	アトランタオリンピックが開催され、日本代表選手団は合計14個のメダル（金3、銀6、銅5）を獲得しました。
2005年 (平成17年)	 <p><b>4月 700号</b></p> <p>表紙の写真は、新十津川中学校の卒業式です。学び舎を巣立つ79人の卒業生が、心を一つに合唱する様子がうかがえます。</p>	愛知県で、2005年日本国際博覧会（愛・地球博）が開催され、2200万人が来場しました。
2013年 (平成25年)	 <p><b>8月 800号</b></p> <p>第27回ふるさとまつりの泥ブリッジ選手権で、泥のプールに飛び込む瞬間が表紙を飾りました。</p>	富士山が、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきたことなどが認められ、世界文化遺産に登録されました。

最初の「村報」の発行から時代は大正、昭和、平成、令和と変わりましたが、「広報しんとつかわ」はこれからも変わらず、町民の皆さんに町からの情報を分かりやすく伝えていくマイ！



900th Anniversary

# 広報しんとつかわ 900号

「広報しんとつかわ」は、今月で通算900号の発行を迎えました。昭和36年の1号から60年、大正13年発行の「村報」を含めると97年にわたりまちの出来事を伝え続けてきました。今回の特集では、節目の号の広報表紙で当時を振り返ります。

発行年	広報誌（広報しんとつかわ）	主な出来事
1961年 (昭和36年)	 <p><b>1月 1号</b>                      当時は「町だより」という名称でした。                      雪をまとったピンネシリの写真とともに、当時の島田町長の年頭のあいさつが巻頭を飾りました。</p>	女子バレー日本代表がヨーロッパ遠征で24連勝し、現地メディアに「東洋の魔女」と呼ばれました。
1965年 (昭和40年)	 <p><b>1月 100号</b>                      1963年の73号から「広報しんとつかわ」に名称を変えました。                      100号の表紙は、冬を健康に過ごすための運動について紹介しました。</p>	この年の11月から1970年7月まで、「いざなぎ景気」と呼ばれる好景気が続きました。
1969年 (昭和44年)	 <p><b>2月 200号</b>                      小学校入学前の児童の健康診断と学力テストの内容が表紙でした。当時は、200人を超える新入学児童がおり、小学校は10校ありました。</p>	宇宙船のアポロ11号の乗員が、人類で初めて月面着陸に成功しました。
1973年 (昭和48年)	 <p><b>2月 300号</b>                      この年の303号以降、月2回から月1回の発行に変更しました。                      300号は、冬山でチェーンソーやブルドーザーを使って木材を切り出す作業の写真が表紙でした。</p>	第4次中東戦争の影響で、第1次オイルショックが発生。トイレットペーパーや洗剤の買い占め騒動が起りました。